

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301260		
法人名	医療法人社団豊仁会		
事業所名	グループホームぬくもり		
所在地	青森県八戸市石堂1-14-27		
自己評価作成日	令和2年8月7日	評価結果市町村受理日	令和3年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは家庭的な雰囲気の中、自由にのんびりと、一緒に楽しく生活できるよう、画一的なスケジュールを設けずに、本人のペースで生活していけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自由にのんびりと、一緒に楽しく生活できるような支援」を理念に掲げ、睡眠や食事時間、一日の過ごし方等、ホーム側の予定は設けず、本人のペースを尊重している。全職員で話し合い、毎年度の目標を立てて、「健康で安全な生活ができるように」とコロナ禍での支援を意識して、日々のケアを実践している。敷地内に母体病院や併設施設があるため、状態変化の対応に安心感がある。花見やお祭り見学等のたくさんの行事を予定していたが、コロナ禍で制限されている。しかし、毎月1回は、七夕やお祭り、お月見等、ホーム内で楽しめる工夫をして支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「自由にのんびりと、一緒に楽しく」共に生活していくことを大きな理念に掲げフロアー内に掲示し、日常的に意識するようにしている。	開設当初からの理念を基に、全職員で話し合っ毎年度の目標を立てている。「入居者の尊厳を守り、健康で安全に生活できるように、その人に合わせたケアを提供します」とコロナ禍をふまえた今年度の目標を立て、日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため、書面で運営推進会議を行っている。地域活動の情報収集を行い、地域の活動に参加したいと考えている。	地域の公民館祭に作品展示で参加したり、介護実習生の受け入れや中学校のグッジョブを受け入れる等している。また、法人主催の「地域交流会」に地域住民の参加を呼び掛けるほか、利用者や家族も参加している。コロナ禍のため、多くのイベントが自粛中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を手紙やFAX等で行い、情報提供や意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや結果の報告は手紙やFAXを通じて行っている。その中で意見を聞き、新たな発見や改善方法等のヒントを得ている。意見等は職員で検討を行っている。	町内会長や地域ボランティア員、市担当職員、包括支援センター職員の参加を得て開催している。ホームの現状報告や研修内容、サービス評価の取り組みについて報告して意見をもらっている。コロナ禍の現在は、書面を送付して意見と感想の返信をまとめ、会議録を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ市職員や包括支援センター職員の参加をお願いしている。現在は、FAXでやり取りを行っている。必要に応じて市役所に行ったり、電話で相談する等している。	市職員や包括支援センター職員と連絡を取り、地域住民の情報交換やアドバイスや新情報をもらっている。コロナ禍では、電話やFAXで感染予防等の連絡を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを基本にしており、開設以来、拘束を行ったことはない。状況により、やむをえない場合も想定されるが、そのようなことが無いよう対応したいと考えている。できる限り鍵もかけないように努力しており、センサーによる見守りを行う場合もある。	身体拘束は行わない方針である。マニュアルを作成し、定期的に学習の機会を設け、全職員で身体拘束の内容や弊害について理解している。ホームは建物2階にあり、エレベーターを利用しているが、センサーの設置や職員間で見守りを重視している。帰宅願望のある利用者には、一緒に周辺を散歩して話を聞く等して気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染症予防のため、外部の研修へは参加できていない状況であるが、ホーム内の研修を行い、職員の資質向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防のため、外部の研修へは参加できていない状況であるが、施設内部の研修を行っている。現在まで活用した実績はないが、依頼があれば、成年後見人制度活用のための支援も行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談時の聞き取りや入居時の説明、その他当ホームで説明できることは説明し、理解していただく努力を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホーム内に設置するほか、苦情処理の流れも掲示している。職員に訴える際は、傾聴して訪問看護師の訪問時に聞き取りをしてもらい、意見や不満、苦情があれば報告してもらうようにしている。	日頃から利用者とコミュニケーションを多くとり、昔の仕事や暮らし方等についてゆっくりと話を聞いている。家族の来訪時には、ホームでの様子や健康状態を伝え、意見や要望を聞くようにしている。毎月の便りでは、行事のスナップ写真等を掲載し、暮らしぶりを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を行い、意見や提案を聞いて反映させている。また、意見があれば随時聞いている。	毎月1回の職員会議では、ケア内容や行事予定、業務内容、学習会等について話し合っており、職員から意見を実践に活かしている。コロナ禍では、外部研修は参加していないが、内部研修で様々な学習の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人役員が頻繁にホームに訪れており、その際、職員の勤務状況や要望の把握、確認を行い、環境条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症予防のため、外部の研修へは参加できていない状況であるが、ホーム内部の研修を行い、職員の資質向上に努めている。また、状況を見て外部の研修も活用したいと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修や総会等に参加し、交流を行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、外部との交流は少なくなっている。必要時は電話等で連絡をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面会できる状況であれば、事前に面会やホームの見学を行っていただき、ホームで生活していくことを納得していただけるようにしている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、感染予防を徹底して、必要最低限の接触としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に聞き取りを行うほか、必要に応じて利用者の面会の機会を設ける等、状況把握に努めている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、感染予防を徹底して、必要最低限の接触としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況や介護状況、ホームの入居状況、待機者状況を踏まえ、必要に応じて他施設の紹介を行っている。また、多くの情報を持っている在宅介護支援センターのケアマネジャーに相談する等している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や作業を行う等、共に生活することを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況や立場の理解に努め、利用者の状況や様子を料金支払い時等に報告している。できる範囲内でご協力いただき、利用者を支えていく関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等に連絡して、許可をいただいてから対応を行っている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、感染予防を徹底して電話での対応にする等、最低限の接触としている。	利用者、家族との会話の中から、馴染みの人や場所等を把握して、希望があれば応えている。また、知人の来訪や電話の取り次ぎ、年賀状作成等、これまでの関係を継続できるように支援している。コロナ禍では、外出制限や窓越しでの家族面会等、感染予防に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の個性を捉え、利用者同士の関係や交流が継続できるように支援している。一人で過ごすことを好む利用者には、無理をさせず、自身のペースで過ごすことを優先している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談があれば、ホームでできる範囲で対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを多くとるようにし、利用者の希望や意向を把握している。ホームで対応できることは対応し、対応できないことについては家族等に相談し、対応してもらっている。	利用者が安心して思いを表せるような雰囲気作りを心掛けている。利用者の日頃の様子や話の内容を記録している。連絡ノートを活用し、思いや意向の把握と共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りのほか、日常会話の中で情報収集や気づいた点、気になる事等を家族に確認して、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のペースで一日過ごしていただく中で観察や見守りを行っている。心身状態や有する力等を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り込むほか、関係職員で会議を行い、日々の記録からの評価やアイデアを反映した介護計画を作成している。また、アセスメントの様式の検討も行っている。	その人らしい暮らしが継続できるように、利用者の生活歴や家族の思い、要望、医療機関から得た情報をもとに、全職員で話し合っている。利用者の様子が具体的に分かる問題提起や解決策が記載された介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、計画に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子やケアの提供状況を記録するとともに、ケアプランに基づき実践、記録することで、結果や気づきの情報共有を行い、介護計画の見直しに活かすように配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に対しては、できる限りの対応を行っている。ホームで対応しきれない要望には、理由と一緒に説明し、どのように対応していくかを相談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の催し物や敬老会等に積極的に参加していたが、現在は新型コロナウイルス感染症予防を徹底しながら、行事等に参加ができないか模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、協力医療機関の説明を行っている。他の医療施設を希望する場合は、意向を優先にしており、受診は家族対応として、受診準備のケアを行っている。	入居時にかかりつけ医の継続について確認し、利用者と家族が希望する医療機関の受診を支援している。協力病院受診は職員が対応し、外部の専門医等の受診は家族が対応している。受診結果は共有されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、適時相談してアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との情報交換ができる体制となっている。早期退院ができるかどうかは主治医とご家族の判断、ホームで対応可能であるかで判断している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での意思確認は行っていない。心身の状況が悪化してきた際に、家族と話し合い、方針を決めている。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明している。できる限りホームで過ごしてもらい、状態の変化に応じて、利用者や家族と話し合いをしている。必要な時期に入院し、隣接の協力病院で安心して最期を迎えることができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じてマニュアルの作成や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施と防災マニュアルの作成、掲示を行っている。運営推進会議で話し合いを設け、協力を得られるように働きかけている。	年2回の火災訓練のほかに、水害と地震の防災訓練を法人内で実施している。併設職員の協力は得られるが、地域住民の協力は得られていない。2階のベランダまでの避難誘導に留まっており、1階と屋外までの誘導は行っていない。災害用備蓄品一覧を作成し、飲食料や衛生用品毛布、発電機等を備えている。	1階と屋外までの避難誘導訓練実施の検討に期待します。いかに応援を呼ぶかについて、法人内でも対応されていると思いますが、推進会議の中でも協力の働きかけを再度行われることに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには注意している。自尊心を傷つけるような言葉遣いは避けるようにしている。また、勉強会を開催して研鑽している。	その人らしさを尊重し、言動を否定せず、ゆっくりと話を聞くように心掛けている。ホームとして画一的なスケジュールを設けず、本人のペースに合わせて、食事や睡眠、入浴等を支援している。職員同士で注意し合える関係を築き、声掛けや対応について学習の機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの関係作りに努め、希望を話しやすくできるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人ひとりのペースで過ごせるように配慮している。場合によっては、希望に添えないことがあるが、説明をしっかりと行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪に関しては委託業者により行われていたが、新型コロナウイルス感染症防止のため、業者の立ち入りが困難なことから職員が無料の理髪を行う等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や身体、認知症の状態等、状況に合わせて支援している。	利用者の希望等で、その日の献立を決めている。利用者の出来る範囲で菊花むしり等、下ごしらえを一緒に行っている。嚥下状態に合わせて、キザミ食にする等、食べ易い食事を提供している。それぞれのペースでゆったりと食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量のチェック記録を行っている。水分をあまり飲まない利用者に対しては、飲水量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや義歯洗浄等、一人ひとりに応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の尊厳を損なわないよう配慮し、対応している。夜間の安眠のため、オムツを使用する利用者がある。	一人ひとりのタイミングで事前誘導を行っている。日中はトイレ排泄を大切にしている。自立状態の利用者が多いが、一人ひとりのペースを尊重して見守っている。定期的におムツの使用を見直している。介助の際は、自然にさりげなく声掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や飲み物等の工夫のほか、適度の運動を生活の中に取り入れている。それでも便秘気味な場合は、かかりつけ医や看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	可能な限り時間や曜日を設定せずに対応しているが、希望にそえないこともあり、その際は謝罪と説明をして納得していただいている。	希望を聞きながら週2回のペースで利用者の入浴支援をしている。1階のデイサービスの浴室を使用しており、リフト浴が使える。自立している利用者は、2から3名が一緒に入ることもあり、安全かつ楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自身である程度判断できる利用者には、マイペースに過ごしてもらっている。身体状況や疲労感、引きこもり、身体機能の低下が懸念される場合等は、状況により休息や離床を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容説明書はいつでも目を通せる場所にあり、職員全員が周知できるようにしている。また、一人ひとりに合った支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣向等をとらえ、本人の楽しみや気晴らしができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防のため外出制限しているが、状況を確認しながら感染予防を徹底して外出機会を設けることを検討している。	花見や三社大祭、梨狩り、ブドウ狩り等季節の行事のほか、買い物や外食等の楽しめる企画をしている。コロナ禍で外出制限しているが、月1回、ホーム内でできる行事を工夫して行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金銭管理は基本的にホームで管理している。利用者が希望した場合は、利用者がなくすことがあることを家族に説明し、納得してもらった際には利用者所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適時レースのカーテンを引いたり、不必要に大きな音は出さないよう努めている。飾り付けや季節の食べ物、話題等により季節感を演出している。	ホールや廊下は広く、大きな窓から陽光が入り明るい。ホールのソファや食卓では、利用者が思い思いにくつろぐことができる。お月見やハロウィン等の手作りの作品を飾り、季節感を大切にしている。物音や声、明るさ、温湿度等に配慮し、居心地良く過ごせるようにしている。コロナ禍のため特に換気と消毒に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間として食堂とソファコーナーの2ヶ所設けている。利用者には、好きな場所で過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の説明の際に、利用者の使い慣れたものがあれば持参していただくように説明しており、家具を持ってきている利用者もいる。	使い慣れたものを持って来てもらえるように働きかけている。時計やテレビ、写真、旅行アルバム等が置かれている。利用者の状態に合わせて安心して過ごせる、その人らしい居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や本人の機能に合わせた補助具等の使用で工夫を行っている。		